



## 平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年11月12日

上場会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6063 URL http://emergency.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 潔  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 前川 義和 TEL 03-3811-8121  
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月12日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨)

### 1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績（平成30年1月1日～平成30年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	2,119	10.6	135	346.4	125	-	90	-
29年12月期第3四半期	1,915	0.2	30	△74.5	10	△86.2	7	△83.4

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 83百万円 (593.1%) 29年12月期第3四半期 12百万円 (155.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	36.70	36.12
29年12月期第3四半期	3.19	3.12

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第3四半期	2,212	823	36.3	325.09
29年12月期	2,119	750	34.5	296.20

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 803百万円 29年12月期 731百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	-	0.00	-	5.00	5.00
30年12月期	-	0.00	-	-	-
30年12月期 (予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

なお、平成30年12月期の期末の配当予想額は現時点では未定です。

### 3. 平成30年12月期の連結業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,850	11.0	115	83.6	100	157.0	69	173.2	27.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年12月期3Q	2,471,600株	29年12月期	2,468,400株
② 期末自己株式数	30年12月期3Q	148株	29年12月期	148株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年12月期3Q	2,471,100株	29年12月期3Q	2,463,457株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善が進み、雇用・所得環境は緩やかな回復基調にあるものの、消費者の節約志向は根強く、また貿易摩擦懸念など海外経済の不確実性もあり、景気の先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの主要事業の業績に影響を与える海外出国者数につきましては、7月は1,557千人(前年同月比5.2%増)、8月は2,033千人(前年同月比7.7%増)、9月は1,630千人(前年同月比0.5%増)と対前年同期比で増加となりました(日本政府観光局(JNTO)調べ、9月はJNTO推計値)。

海外からの訪日外客数は、7月は2,832千人(前年同月比5.6%増)、8月は2,577千人(前年同月比4.1%増)となったものの、9月は台風による関西空港の閉鎖や北海道の地震の影響により2,159千人(前年同月比5.3%減)と前年同月より減少しています(日本政府観光局(JNTO)調べ、8、9月はJNTO推計値)。

海外における日本人顧客向けの医療アシスタンスサービスにとって海外出国者数の増加は好環境であり、海外旅行保険の付帯サービス、事業法人向けアシスタンスサービス、留学生危機管理サービス、セキュリティ・アシスタンスサービスの提供は堅調に推移しました。

また、外国人患者受入を実施する国際医療事業についても日本の高度医療の認知度向上や外国人受入医療機関の増加を受けてサービス提供数は増加しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,119百万円(前年同期比10.6%増)と増収になりました。費用につきましては、業容拡大に伴う要員増とカナダセンターの設置や設備への追加投資により増加し、売上原価は1,563百万円(前年同期比6.5%増)、販売費及び一般管理費が420百万円(前年同期比0.8%増)となり、営業利益は135百万円(前年同期比346.4%増)、経常利益は125百万円(前年同期比1,139.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は90百万円(前年同期比1,055.4%増)となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

#### (医療アシスタンス事業)

##### (i) 海外旅行保険の付帯サービス

海外旅行保険の付帯サービスに関しましては、海外出国者数の増加という好環境にも恵まれ、売上が前年同期比で大幅に増加しております。

##### (ii) 事業法人向けアシスタンスサービス、留学生危機管理サービス、セキュリティ・アシスタンスサービス

当社は医療アシスタンスサービスとセキュリティ・アシスタンスサービスの両サービスを企業・大学に提供しております。企業・法人は海外での危機管理対応のため、サービスの利用が増え、売上高は増加しました。

##### (iii) 救急救命アシスタンス事業

救急救命アシスタンス事業は、三次元物理探査船運航への医療支援業務や官公庁受注業務を着実に実施することで売上は堅調に推移しました。

また、救急救命士や看護師が現地プラント、僻地サイトに常駐して現地医療体制を構築し、緊急時の救急対応に加え、日常の健康見守りを実施して傷病の発生を未然に防止するプロジェクト型の救急救命アシスタンスサービスをこれまで官公庁事業で提供してきましたが、これを「E A Jプロジェクトアシスト」としてパッケージ化し、民間企業に向けて提供開始いたしました。

##### (iv) 国際医療事業

国際医療事業につきましては、患者受入環境の好転と相まって患者受入数は増加しました。

また、日本国内における海外からの訪日外客数の増加に伴い、外国人に病気や怪我など不測の事態が起こった場合のスムーズな医療提供が大きな課題となりつつあります。今後は官公庁・保険会社等と協力しながら緊急対応型医療アシスタンスの需要の取り込みを実施してまいります。

当セグメントの費用に関しましては、医療アシスタンス事業の効率化を図るとともに、北米地域での営業強化を推進するためカナダのバンクーバーに新センターを設置したこと、また、ビジネス拡大による設備投資の増加、昨今の人手不足による採用コスト増等に伴う経費増がありました。

これらの結果、医療アシスタンス事業の売上高は1,752百万円(前年同期比11.7%増)、セグメント利益は356百万円(前年同期比38.1%増)となりました。

#### (ライフアシスタンス事業)

ライフアシスタンス事業につきましては着実な遂行を実施し、新規サービスも順調に軌道にのり、売上高は堅調に推移しました。

一方で増大する顧客対応業務に対応するため人員採用を進め人件費は増加しました。

この結果、ライフアシスタンス事業の売上高は367百万円(前年同期比6.0%増)、セグメント利益は86百万円(前年同期比21.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ92百万円増加し、2,212百万円となりました。

主な増減要因としては、立替金149百万円の増加、現金及び預金120百万円の減少、売掛金54百万円の増加がありました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ19百万円増加し、1,388百万円となりました。主な増減要因としては、短期借入金80百万円の減少、1年内返済予定の長期借入金31百万円の減少、未払法人税等37百万円の増加、賞与引当金30百万円の増加がありました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ73百万円増加し823百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益が90百万円発生し、為替換算調整勘定が7百万円減少し、前連結会計年度分の配当金の支払いのために資本剰余金が12百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、開示予算を大幅に上回りましたが、為替相場及び海外出国者数の増加が不確定であること、来年営業開始予定のカナダセンターのための費用発生が見込まれること等の状況を勘案し、現状では平成30年7月25日に公表いたしました業績予想は変更せず、引き続き堅実な事業経営を進めてまいります。

平成30年10月15日に代表取締役社長 吉田一正が逝去いたしました。平成30年10月16日に取締役副社長であった倉田潔が後任の代表取締役社長に就任しました。引き続き役員・社員一丸となって社業に邁進してまいります。

なお、連結業績予想の詳細は平成30年7月25日に別途公表している「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	976,461	856,179
売掛金	171,906	226,166
仕掛品	32,094	18,954
立替金	519,199	668,870
その他	93,690	105,381
貸倒引当金	△1,186	△970
流動資産合計	1,792,165	1,874,581
固定資産		
有形固定資産	105,298	115,745
無形固定資産	137,441	100,087
投資その他の資産	84,586	121,872
固定資産合計	327,326	337,704
資産合計	2,119,492	2,212,286
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,516	7,716
短期借入金	660,000	580,000
1年内返済予定の長期借入金	54,988	23,334
未払法人税等	2,504	39,858
前受収益	256,081	228,925
賞与引当金	—	30,529
その他	327,574	426,474
流動負債合計	1,307,663	1,336,837
固定負債		
長期借入金	39,420	29,020
その他	22,032	22,963
固定負債合計	61,452	51,983
負債合計	1,369,116	1,388,821
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	303,988	304,489
資本剰余金	205,805	193,965
利益剰余金	185,729	276,429
自己株式	△113	△113
株主資本合計	695,409	774,770
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	35,675	28,668
その他の包括利益累計額合計	35,675	28,668
新株予約権	19,290	20,025
純資産合計	750,376	823,464
負債純資産合計	2,119,492	2,212,286

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	1,915,678	2,119,636
売上原価	1,467,679	1,563,198
売上総利益	447,998	556,438
販売費及び一般管理費	417,655	420,991
営業利益	30,342	135,446
営業外収益		
受取利息	815	1,270
助成金収入	118	488
その他	395	733
営業外収益合計	1,328	2,492
営業外費用		
支払利息	3,134	2,570
為替差損	13,690	10,002
その他	4,735	55
営業外費用合計	21,560	12,628
経常利益	10,111	125,311
特別損失		
固定資産売却損	253	-
固定資産除却損	244	1,085
特別損失合計	497	1,085
税金等調整前四半期純利益	9,613	124,226
法人税等	1,763	33,526
四半期純利益	7,850	90,699
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,850	90,699

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	7,850	90,699
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4,224	△7,006
その他の包括利益合計	4,224	△7,006
四半期包括利益	12,074	83,693
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,074	83,693



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年2月24日 取締役会	普通株式	12,317千円	5円	平成28年12月31日	平成29年3月29日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年2月23日 取締役会	普通株式	12,341千円	5円	平成29年12月31日	平成30年3月29日	資本剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医療アシスタンス 事業	ライフアシスタンス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,569,502	346,175	1,915,678	-	1,915,678
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,569,502	346,175	1,915,678	-	1,915,678
セグメント利益	258,051	70,822	328,874	△298,531	30,342

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医療アシスタンス 事業	ライフアシスタンス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,752,566	367,070	2,119,636	-	2,119,636
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,752,566	367,070	2,119,636	-	2,119,636
セグメント利益	356,426	86,186	442,613	△307,166	135,446

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。